

令和5年度

試験名:推薦入学試験

【社会・国際学群 国際総合学類】

| 区 分 | 標準的な解答例又は出題意図 |
|--------|--|
| 問1 (1) | エジプト革命(2011)年後のカイロにおいて、都市計画や公共インフラなどの行政サービスが行き届かないエジプトにおいて、住民が自ら住環境整備に動いているという状況を踏まえ、将来のカイロの都市空間の在り方を展望した記事を読ませ、その内容要約力を試す問題である。ボトムアップ型のまちづくり、草の根運動といった、住民による住環境形成のキーワードを適切に理解し、文脈を把握できているかを採点の基準とした。 |
| 問1 (2) | (1)の要約を踏まえて、問題文下線部についての自身の意見を述べさせる問題である。問題文の著者の考えは行政はトップダウン型ではなくボトムアップ型であるべきだというものであり、これについて賛成、反対のいずれにせよ、論拠を明確にし、論理的に文章表現が出来ているかどうかを採点の基準とした。 |
| 問2 (1) | 台頭する国家と既存の覇権国との間で破壊的な戦争がこれまで繰り返されてきたが、その本質的要因を解明しようとする著書の一部を読ませ、受験生が議論を正しく理解しているか、そしてその内容をわかりやすくまとめることができているかを評価の基準とする。 |
| 問2 (2) | アテネとスパルタが戦ったペロポネソス戦争の分析をもとに、著者は現代における世界の二大国家も今後戦争に突入する可能性が高いとしている。これまでの歴史を振り返り、たとえ双方が望まない場合でも、結果的に戦争にまで発展したケースが多かったからである。ここで二大国家とは米国と中国を指しているが、受験生がまずその点を理解できているかを見る。そして筆者が言うように、新旧大国を衝突させてしまう所謂「トゥキディデスの罠」というものが、今後の米中関係にも当てはまるかどうかについて、賛同する点・しない点等を、具体例を示しつつ論理的に述べているかを評価する。 |